

### 目次

|                                     |   |                                       |   |
|-------------------------------------|---|---------------------------------------|---|
| 次回大会予告……………                         | 1 | 会員の著書紹介……………                          | 3 |
| 個人研究発表・パネル報告・<br>ワークショップ募集について…………… | 1 | 会員の著書紹介募集……………                        | 3 |
| 大会シンポジウム趣旨……………                     | 2 | 日本女性学会 2022年度<br>「少額研究活動支援」対象者募集…………… | 3 |
| 学会誌『女性学』全号電子公開<br>完了のお知らせ……………      | 2 | 会費納入のお願い……………                         | 4 |

### 次回大会予告 オンライン開催 (Zoom)

#### 大会シンポジウム 「ジェンダー化された表象とフェミニズム」

開催日程 (予定)

1日目 6月18日(土) 13時～16時30分(予定)

大会シンポジウム、その後総会、懇親会

2日目 6月19日(日) 9時30分～15時(予定、昼食休憩を1時間ほど含みます)

個人研究発表、パネル報告、ワークショップ

共催：名古屋大学男女共同参画センター

※詳細は次号でお知らせします。

### 個人研究発表・パネル報告・ワークショップ募集について

カテゴリー (個人研究発表、パネル報告、ワークショップ) を明示したうえで、以下の要領でご応募ください。

- ・個人研究発表：発表タイトル、発表者名 (所属)、要旨 (200字程度)
- ・パネル報告：パネルタイトル、コーディネータ名 (所属)、各発表者名 (所属)、各発表タイトル、各要旨 (200字程度)、司会者名 (所属)
- ・ワークショップ：テーマ、コーディネータ名 (所属)、各発表者名 (所属)、概要 (200字程度)

締め切り：3月31日(木) 24時

送付先：飯田祐子、牟田和恵

\*受信トラブルを避けるため、両名にお送り下さい。受信の返信がない場合は、再送をお願いします。

- 個人研究発表は、ひとつの分科会で、3～4人の方に発表していただきます。幹事会で発表の組み合わせと進行担当幹事を決めます。
- パネル報告は、共通するテーマの3件以上の研究発表で構成してください。公平な時間配分と十分な質疑時間の確保にご留意ください。
- ワークショップは、参加者との共同作業でテーマを発展させていく取り組みで、研究発表とは性格の異なるものです。原則として複数の発表者が分科会全体 (2時間程度) を担当していただきます。

\*発表者、コーディネータ、司会は会員に限ります。応募の際にご確認ください。非会員の方は応募時にご入会ください。

---

## 2022 年度大会シンポジウム趣旨 ジェンダー化された表象とフェミニズム

---

シンポジスト：吉良智子（日本女子大学）  
田中東子（大妻女子大学）  
前之園和喜（民間調査会社）  
コーディネーター：古久保さくら、荒木菜穂

実在・非実在にかかわらず、表象としての「女性」がポスターや動画等に用いられることは常態化していますが、それが「フェミニスト」からのクレームによって炎上することも珍しくありません。その一方、抗議に対して、「表現の自由」という観点からの激しいバッシングが生じることもありがちです。

歴史的にも繰り返されてきたこのような対立状況の中、2022 年度の日本女性学会大会のシンポジウムは「ジェンダー化された表象とフェミニズム」というテーマで開催します。

女性たちはどのように表象されてきたのか、ジェンダー化されたその表象に対し、どのような批判的解釈をしようのか、歴史的に確認した上で現在の論争的な事例について考えてみたいと思います。フェミニズムはなぜそれらを批判し問題化してきたのか、そこでの議論からは何が見落とされてきたのか、こうした検討をふまえた上で、ジェンダー平等社会にふさわしい新しい表象や解釈を生み出す可能性についても考えてみたいと思います。

パネリストには吉良智子さん、田中東子さん、前之園和喜さんをお迎えし、コーディネーターを荒木菜穂会員と古久保さくら会員が務めます。

吉良智子さんには、女性の表象がどのように扱われてきたのか、ご自身の歴史研究の成果もふまえて、メディア研究における表象の意味づけ、批判的視点の理論的枠組みなどを中心に語っていただければと思います。田中東子さんには、従来の女性表象に対する第二波フェミニズム的な女性運動の批判にどのような課題があったのか、それを乗り越えたところで展開されつつある女性表象の可能性についても語っていただければと思います。前之園和喜さんには、若い世代の「萌えキャラファン」として、現状でのフェミニストからの批判について思うことを、具体的に、より説得的にお話いただければと思っています。

お三方を迎えてのシンポジウムを通して、女性表象をめぐる世代を超えた「知」の創造ができることを期待しています。

### 学会誌『女性学』の全号電子公開完了しました！

日本女性学会では、学会誌の電子化を進めていましたが、この1月に全号（創刊号～27号）の電子化が完了、J-STAGEにて公開されました。 <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/wsj/-char/ja>

公開された論文・記事数はおよそ300本です。これにより、会員の研究業績のインターネットでの検索・アクセスが容易になり、会員の皆さんに大きなメリットになるとともに、女性学研究の普及進展にもつながると期待されます。

今後は、紙版雑誌最新号が刊行され次第（3月年度末）、その前の号を公開していくこととなります（したがって、28号は4月初め公開となります）。

なお、過去に掲載された論文のうち、執筆者と連絡がつかず電子化の許諾が得られなかったため、未公開となっている論文・記事が約30本あります。これらにつきましては、後日、会員の皆さんに情報をお寄せいただくよう協力願うこととしておりますので、よろしく申し上げます。

なお、上記URLは、J-STAGEの『女性学』誌トップページです。アクセスランキング等も見ることができ、興味深いです。

（電子化担当幹事 牟田・大木）

## 会員の著書紹介

- 岩本美砂子著『百合子とたか子—女性政治リーダーの運命』岩波書店、2021年
- 大串尚代・杉田真衣・上野千鶴子他著『学術会議叢書 29 人文社会科学とジェンダー』公益財団法人日本学術協力財団、2022年
- 広井多鶴子編著・山崎明子著『下田歌子と近代日本 1854-1936 一良妻賢母論と女子教育の創出』（実践女子大学下田歌子記念女性総合研究所 研究叢書第1巻）勁草書房、2021年
- ウォント盛香織編著『本気で女性を応援する女子大学の探求—甲南女子大学の女性教育』明石書店、2021年
- 井上輝子著『日本のフェミニズム—150年の人と思想』有斐閣、2021年
- 牟田和恵・岡野八代・丸山里美著『女性たちで子を産み育てるということ—精子提供による家族づくり』白澤社、2021年
- 蘭信三・一ノ瀬俊也・石原俊・佐藤文香・西村明・野上元・福間良明編『シリーズ戦争と社会1 「戦争と社会」という問い』岩波書店、2021年

### 会員の著書紹介募集

以下のルールで会員のみなさまの著作を紹介します。掲載ご希望の方は、ニュースレター担当者までご連絡ください。

- ・会員が執筆・編集している単行本（分担執筆含む、雑誌をのぞく）
- ・1年以内の発行物
- ・ご本人の申し出があったもの
- ・寄贈は条件としない
- ・寄贈いただいたもので会員の著作と判明したもの

ニュースレター担当  
飯田祐子

## 日本女性学会 2022 年度 「少額研究活動支援」対象者募集のお知らせ

日本女性学会では、常勤ないし正規雇用契約をもたず、研究財源の確保に困難をかかえている会員の研究活動を支援することを目的に、「少額研究活動支援」を創設しました（2011年度総会承認）。要件に該当する会員を対象に、研究活動支援金を支給します。下記の通り、2022年度の支給対象者を募集します。ささやかな活動ですが、ぜひ活用ください。

### 記

内 容 対象者の日本女性学会の趣旨に沿った活動に対し、1人あたり3万円の研究活動支援金を支給する

対 象 2022年度4月1日以降に常勤ないし正規雇用契約をもたない会員10名

応募要件

- (1) 前年度までの会費が納入されていること
- (2) 日本女性学会会員の会費区分6,000円の者
- (3) 常勤ないし正規雇用契約下でないこと
- (4) 日本学術振興会特別研究員でないこと

ただし、本研究活動支援金の支給は一人あたり3回までとする

応募方法 日本女性学会ウェブサイトにも備える応募用紙により日本女性学会事務局宛郵送

応募締切 2022年4月20日（水）着分まで

詳細および応募用紙 日本女性学会ウェブサイト「助成」のページ

<http://joseigakkai-jp.org/%e5%8a%a9%e6%88%90/>

## 会費納入のお願い

- 2021年度の会費が未納の方は、どうぞお早めにお支払いください。会費納入のお願いと払込用紙はすでに送付しております。払込用紙をなくされた方は、郵便局備え付けの払込用紙をご利用のうえ、下記の納入先までお振込みください。

ゆうちょ銀行 振替口座

口座記号番号 00890-6-31306

加入者名 日本女性学会

- ネットバンキングでも納入できます。

ゆうちょ銀行 支店名：089（ゼロハチキユウ）

預金種目：当座 口座番号：0031306

- 日本女性学会の会費は年収スライド制（自己申告・税込み・該当年度予定収入）をとっております。

- ・ 400万円未満（無職・学生含む）：6,000円
- ・ 400～600万円未満：8,000円
- ・ 600万円以上：10,000円

- 3年以上会費を滞納されている方は退会とみなされます（日本女性学会幹事改選選挙実施規定第4条（3））。複数年滞納されている方は、過不足なくお支払いいただくためにもご自身の納入状況を事務局にご確認のうえ、どうか早急にお支払いください。

- 学会の運営は会員みなさんの会費によって成り立っております。重ねてのご協力をお願いいたします。

- 永年会員制度をご活用ください

2021年度から永年会員制度が開始されました。前年度までの会費を納めている65歳以上の会員は、前年度会費額の3ヵ年分の納入によって会費完納とし、永年会員とすることができます。振り込み時に「永年会費」とお書きください。

65歳以上の会員の皆さま、どうぞ活用ください。